

4. 3Rとは

限られた資源の有効活用のため、発生抑制を最優先とした環境負荷の少ない循環型社会を構築するために取組む行動には優先順位があります。

第1にごみの発生を抑制する「Reduce（発生抑制）」、第2に繰り返して使用する「Reuse（再使用）」、第3に再び資源として利用する「Recycle（再生利用）」があり、これらの頭文字をとって「3R」と呼びます。この3Rを実践することで、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される循環型社会の形成が可能となります。

3Rを効果的に実践した後、残ったごみは熱回収に利用し、最後に適正処分を行います。これらの優先順位を踏まえて、ごみ減量・再資源化に取り組んでください。

優先順位		
3 R	1 リデュース (発生抑制)	ごみになるものを買わない・作らない・受け取らないなどにより、ごみの発生そのものを抑制します。 ごみの総排出量そのものが少なくなるので、資源が節約され、ごみ処理による環境負荷を無条件に軽減することができます。
	2 リユース (再使用)	一度使用したものをすぐに捨てるのではなく、そのまま何度でも使用します。 製品を生産するための資源を節約し、環境負荷を軽減することができます。
	3 リサイクル (再生利用)	不要になったものに手を加え、再び原材料として利用します。 天然資源の利用量やごみの発生量は減らすことができますが、回収された製品を原材料に戻して再度製品に加工するため、新たに環境負荷が生じます。
	4 熱回収	廃棄物を単に焼却するのではなく、焼却の際に発生するエネルギーを回収・利用します。
	5 適正処分	最後に残った廃棄物を、最終処分場に埋め立てます。

